様式Ｃ-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成 21 年 6 月 2 日現在

研究種目：基盤研究（Ｂ）
研究期間：2006～2008
課題番号：18330145
研究課題名（和文）統合失調症に対する認知行動療法の効果研究と臨床心理士への普及

研究課題名（英文）Outcome Study of Cognitive Behavioral Therapies and Its Dissemination to Japanese Clinical Psychologists

研究代表者
丹野義彦（TANNO YOSHIHIKO）
東京大学・大学院総合文化研究科・教授
研究者番号:60179926

研究成果の概要：欧米でさかんになっている認知行動療法を日本の臨床心理士に普及させるために、統合失調症への認知行動療法の効果に焦点を当てた研究をおこなった。効果研究をレビューし、統合失調症への認知行動療法のマニュアルを翻訳し、統合失調症の患者を対象とする研究と、統合失調症症状や統合失調症型についての研究を行なった。３年間に多数のワークショップを開催し、臨床心理士への普及をはかった。

交付額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2006 年度	4,100,000	1,230,000	5,330,000
2007 年度	4,200,000	1,260,000	5,460,000
2008 年度	4,400,000	1,320,000	5,720,000
総　計	12,700,000	3,810,000	16,510,000

研究分野：社会科学
科研費の分科・細目：心理学・臨床心理学
キーワード：認知行動療法、臨床心理士、統合失調症

１．研究開始当初の背景

研究代表者らは、科学的な臨床心理学を日本に定着させるために、認知行動療法、エビデンス・ベーストな実践（実証にもとづく臨床実践）を普及させる活動をおこなってきた。欧米では、認知行動療法は、うつ病を中心として、不安障害、心身医学的疾患、統合失調症などに適用され、臨床心理学の主流となっている。わが国では、2004 年に神戸で開かれた世界行動療法認知療法会議をきっかけとして、認知行動療法に大きな関心が払われるようになったものの、まだ定着しているとは言いがたかった。そこで、本研究では認知行動療法に焦点を当てて、その効果研究と臨床心理士への普及活動をおこなうことにした。

２．研究の目的

本研究は、欧米でさかんになっている認知行動療法をわが国において開発し、臨床心理士への普及をめざした活動をおこなうことを目的とする。多くの精神疾患の中でも、これまでわが国で取り組まれることが少なかった

統合失調症の認知行動療法の効果に焦点を当てる。

３．研究の方法

統合失調症への認知行動療法の効果を調べるため、欧米の効果研究をレビューし、どの方法が最も効果的かをレビューした。また、研究代表者および連携研究者は国際学会に参加して研究発表し、学会に併設された臨床ワークショップに参加し、認知行動療法のノウハウを獲得した。2006 年のヨーロッパ認知行動療法学会（丹野、石垣）とアジア認知行動療法会議（丹野、石垣、毛利、杉浦、山崎）、2007 年の世界行動療法･認知行動療法会議(丹野、石垣、毛利、杉浦、山崎）とアメリカ認知行動療法学会（丹野）、2008 年の国際認知療法学会（丹野）とヨーロッパ認知行動療法学会（丹野）である。さらに、統合失調症への認知行動療法の効果を調べ、"Cognitive Behaviour Therapy for Psychosis"（Fowler, Garety, Kuipers, 1995）を選んだ。これを翻訳し、マニュアルとして用いた。このマニュアルは出版予定である。

こうした方法論のもとに、統合失調症の認知行動についての効果研究をおこなった。慢性期の統合失調症患者 43 名を対象として、計画的対処行動を取ると妄想症状が低下し、逃避的対処行動をとると妄想症状が増大するという仮説を立てた。１ヶ月の間をおいて、ピーターズ妄想質問紙を指標として研究をおこなった（Yamasaki, Arakawa, Tanno, Furukawa, 2006）。

次に、臨床心理士への普及をめざすために、認知行動療法の世界的リーダーに臨床ワークショップを開いてもらった。2006 年には、David M. Clark と Anke Ehlers（ともにロンドン大学精神医学研究所教授）を日本認知療法学会に招待し、臨床ワークショップを開催した。2007 年には、Adrian Wells（マンチェスター大学心理学科教授）を日本心理学会に招待してワークショップを開催した。2008 年度には、Stefan Hoffman（ボストン大学心理学科教授）が日本不安障害学会に参加した。Clark と Ehlers のワークショップの記録は『対人恐怖とＰＴＳＤへの認知行動療法』（星和書店,2008）として出版した。また、この３年間に，臨床心理士を対象としたワークショップを多数開催した。2006 年には、研究代表者が大会会長となり第６回日本認知療法学会を開催し、そこで 11 本のワークショップを実施した。また、本格的に認知行動療法の技法を学ぶ場として、久保木富房氏・貝谷久宣氏らとともに、東京認知行動療法アカデミーを設立し、2006 年２回、2007 年６回、2008 年５回のワークショップを東京および京都で開催した。

４．研究成果

統合失調症患者を対象とした研究においては、計画的対処行動を取ると妄想症状が低下し、逃避的対処行動をとると妄想症状が増大するという仮説は、いずれも支持されなかった（Yamasaki, Arakawa, Tanno, Furukawa, 2006）。測定の感覚が１ヶ月では少なかったためであるという可能性が示唆された。その他に、統合失調症の患者を対象とする研究と、統合失調症症状のアナログ研究や統合失調症型についての調査と実験を多数行なった。それらの成果は、後述する雑誌論文、学会発表、図書にまとめられている。

また、統合失調症の認知行動療法の研究を日本に普及させるために、学会でのシンポジウムを開催した。2006 年には、「統合失調症への心理学からのアプローチ」(日本心理学会)、「臨床現場に生かす認知行動療法入門」(日本心理臨床学会)を実施した。2007 年には、

「認知行動療法と実証（エビデンス）にもとづく臨床」（日本心理学会）、「幻覚・妄想に関するアナログ研究の展開」（日本心理学会）、「はじめて出会う認知行動療法」（日本心理臨床学会）、"Cognitive behavioral approach to the psychology on symptoms of psychosis" (World Congress of Behavioural and Cognitive Therapies, Barcelona)、2008 年には、「統合失調症の心理学」（日本心理学会）、「はじめて出会う認知行動療法」（日本心理臨床学会）を実施した。認知行動療法のもとになる「実証にもとづく臨床心理学」を定着させるために、東京大学出版会より『叢書・実証にもとづく臨床心理学』のシリーズを刊行した。2006 年は、『不安障害の臨床心理学』、2007 年は『臨床社会心理学』、2008 年は『臨床認知心理学』を出版した。

多数の臨床ワークショップを開催することによって、ワークショップを開催する方法論のスキーマが完成した。そのひとつとして、認知行動療法の技法を臨床心理士向けに事例を中心に解説した『認知療法・認知行動療法事例ワークショップ』（伊藤・丹野,2008）を出版した。このほか、臨床心理士向けのワークショップをまとめた『ワークショップから学ぶ認知行動療法の最前線　ＰＴＳＤ、強迫性障害、統合失調症、妄想への対応』（丹野・坂野,2008）と『ワークショップから学ぶ認知行動療法の最前線　うつ病、パーソナリティ障害、不安障害、自閉症への対応』（丹野・坂野,2008）を出版した。

３年間で実施した臨床ワークショップには、多くの参加者があった。2006 年の第６回日本認知療法学会およびワークショップには 1000 名を越える参加者を得た。また、東京認知行動療法アカデミーのワークショップののべ参加者は、2006 年 500 名、2007 年 1500 名、2008 年 1500 名に達した。認知療法学会と東京認知行動療法アカデミーの参加者を合わせると、３年間で 4500 名以上を動員したことになる。

以上のような本研究の活動により、認知行動療法の効果を確認し、日本の臨床心理士への普及が大きく進んだ。2007 年に、日本臨床心理会が臨床心理士 10157 名を対象に、『臨床心理士の動向ならびに意識調査』をおこなった。「学びたいと考えている臨床心理面接技法」を聞いた結果では、行動療法・認知行動療法的アプローチを学びたいと考えている臨床心理士は 72.8%に達した。技法の中では第１位に躍進した。同じ調査が 2004 年にもおこなわれたが、そこでは第３位であった。このような結果をみても、認知行動療法が 2007 年頃に、日本の臨床心理士の関心を強く引き、大きく普及したことは明らかである。このような結果からも、本研究の成果は大きかったと判断できる。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計 24 件）

1.Asai, T., & Tanno, Y. Highly schizotypal students have a weaker sense of self-agency. Psychiatry and Clinical Neurosciences. 査読あり. 62, 115-119. 2008.

2.Asai, T., Sugimori, E., & Tanno, Y. Schizotypal personality traits and prediction of one's own movements in motor control. Consciousness and Cognition, 査読あり. 17. 1131-1142. 2008.

3.Kobori, O., & Tanno, Y. :Self-Oriented Perfectionism and excessive information gathering. Australian Journal of Psychology, 査読あり. 60, 26-30.2008.

4.Moriya, J., & Tanno, Y. Relationships between negative emotionality and attentional control in effortful control. Personality and Individ

ual Differences, **査読あり．** 44, 1348-1355. 2008.

5.**浅井智久・丹野義彦：統合失調症の認知神経心理学的研究から見た自己意識．心理学評論，査読あり．** 50, 371-383. 2008.

6.ASAI, T. & TANNO, Y. Bimanual coordination in predicting one's own movements in motor control Session. International Journal of Psychology, **査読なし．** 43, 442, 2008.

7.YAMAUCHI, T., SUDO, A. & TANNO, Y. Characteristics of paranoid thoughts in a non-clinical population. International Journal of Psychology, **査読なし．** 43, 524, 2008.

8.**丹野義彦・久保木富房・貝谷久宣・野村忍：東京認知行動療法アカデミー．心療内科，査読なし．** 12, 112-117, 2008.

9.**中安信夫：早期介入のための診断．精神病理学的方法**. Schizophrenia Frontier**．査読なし．** 9; 11-18, 2008.

10.Asai, T. & Tanno, Y. The relationship between the sense of self-agency and schizotypical personality traits. Journal of Motor Behavior, **査読あり．** 39, 162-168, 2007.

11.**浅井智久・丹野義彦：統合失調型パーソナリティと視聴覚同時提示した運動情報統合の関係．認知心理学研究，査読あり．** 5, 33-41, 2007.

12.Sugiura, Y.:Responsibility to continue thinking and worrying: Evidence of incremental validity. Behaviour Research and Therapy, **査読あり．** 45, 1619-1628.2007.

13.**杉浦義典:治療過程におけるメタ認知の役割．心理学評論，査読あり．** 50, 328-340. 2007.

14.Osumi, T., Shimazaki, H., Imai, A., Sugiura, Y., Ohira, H. :Psychopathic traits and cardiovascular responses to emotional stimuli. Personality and Individual Differences, **査読あり．** 42, 1391-1402.2007.

15.Yamasaki, S ., Yamasue, H., Abe, O., Yamada, H., Iwanami, A., Hirayasu, Y., Nakamura, M., Furukawa, S., Rogers, M.A., Tanno, Y., Aoki, S., Kato, N., Kasai, K.: Reduced planum temporale volume and delusional behavior in patients with schizophrenia. European Archives of Psychiatry and Clinical Neuroscience. **査読あり．** 257(6) 318-324 2007.

16.Sasaki, J., & Tanno, Y. Two cognitions observed in Taijin-kyofusho and social anxiety symptoms. *Psychological Reports*, **査読あり．** **98**, 395-406. 2006.

17.Skamoto, S., Moriwaki, A., Sasaki, J., Miyata, Y., Kobori, O., Okumura, Y. & Tanno, Y. Benefits of negative thinking and negative affect. Psychological Reports, **査読あり．** 99, 449-461. 2006.

18.**丹野義彦：認知行動療法と臨床心理学．理論心理学研究，査読なし．** 7,49-52,2006.

19.**山崎修道・荒川裕美・丹野義彦　大学生の妄想様観念と対処方略の関係．パーソナリティ研究,査読あり．** 14, 254-265, 2006.

20.**松本武典・小堀修・勝倉えりこ・大森まゆ・丹野義彦・原田誠一：日本版バーチャルハルシネーション（VH）を用いた統合失調症の疾患教育の試み．精神医学，査読あり．** 48,487-494,2006.

21.**浅井智久・丹野義彦：統合失調型と視聴覚運動情報の統合の関係．パーソナリティ研究，査読あり．** 15,64-66,2006.

22.**中安信夫：統合失調症の初期診断と宮崎勤精神鑑定．郡山精神医療　第** 21 **号,．査読なし．** 1-25, 2006.

23.**石垣琢磨・道又襟子：経過の長い統合失調症に対する認知行動療法．心理臨床学研究．査読あり．** 24：280－291，2006.

24.**石垣琢磨：認知行動療法における「終結」．**

京都大学心理教育相談室紀要臨床心理事例研究．査読なし．33：7-10，2006.

〔学会発表〕（計 13 件）

1.Asai T. Tanno Y. Schizotypal personality traits and prediction of one's own movements in motor control: What causes an abnormal sense of agency? Association of the Scientific Study of Consciousness, 2008 年 6 月 21 日 Taipei, Taiwan.

2.Yamauchi, T., Sudo, A., & Tanno, Y. Causal direction between anger and paranoid thoughts in a nonclinical group of college students. The 10th International Congress of Behavioral Medicine, 2008 年 8 月 27 日.Tokyo.

3.Yamauchi, T., Sudo, A., & Tanno, Y. Two types of paranoia in a sample of highly schizotypal students. International Conference on Schizophrenia. 2008 年 10 月 5 日,Chennai, India.

4.Miyoshi, R., TANNO, Y. 2008 The relationship between schizotypy and creative achievement. 10th Interational Congress of Behavioral Medicine, 2008 年 8 月 27 日.Tokyo.

5.Mohri, I., Harai, H., Yamaguchi, H. Yamaguchi, Y., and Deshimaru, M. : Which comes first, social anxiety or depression? The 5th World Congress of Behavioural and Cogitive Therapies, 2007 年 7 月 15 日.Barcelona, Spain.

6.Yamasaki, S., Arakawa, H., and Tanno, Y. ：Delusion-like Ideation and Coping. World Congress of Behavioral and Cognitive Therapies. 2007 年 7 月 15 日.Barcelona, Spain.

7.Asai, T., & Tanno, Y. The relationship between the sense of self-agency and schizotypy. Abstract of the 1st Asian Cognitive Behaviour Therapy Conference, p. 165, 2006 年 5 月 29 日.Hong Kong.

8.Asai T.& Tanno Y. The relationship between schizotypy and the audio-visual integration. 2006 APA convention. 2006 年 8 月 11 日.New Orleans.

9.ARAKAWA,H., YAMASAKI,S., TANNO,Y. Relationship between the tendency of need for closure and delusional ideation among college students. Abstracts of third International Conference of the Asian Federation For Psychotherapy. p.105, 2006 年 8 月 30 日.Tokyo.

10.Asai T. Tanno Y. The smaller sense of self-agency, which highly schizotypal people have, isn't due to the low intention. Abstracts of the third International Conference of the Asian ederation For Psychotherapy. p.106, 2006 年 8 月 30 日.Tokyo.

11.Yamauchi, T., Sudo, A., & Tanno, Y. Persecutory ideation and personality: Based on comparison with depression. Abstracts of the third International Conference of the Asian Federation For Psychotherapy. p.96,2006 年 8 月 30 日.Tokyo.

12.ARAKAWA, H., YAMASAKI, S., TANNO, Y. Data-gathering bias in anxiety situation among college students with delusional Ideation. The 36th Annual Congress of The European Association for Behavioural and Cognitive Therapies. 2006 年 9 月 22 日,Paris.

13.Asai, T., Tanno, Y. Highly schizotypal people are less affected by the visual motion in dynamic-ventriloquism. The Third International Workshop on Evolutionary Cognitive Science, 2006 年 3 月 15 日.Tokyo.

〔図書〕（計 14 件）

1.伊藤絵美・丹野義彦（編著）：認知療法・認知行動療法事例ワークショップ（1）．星和書店．2008.

2.丹野義彦・坂野雄二（編）：ワークショッ

プから学ぶ認知行動療法の最前線　ＰＴＳＤ、強迫性障害、統合失調症、妄想への対応．金子書房．2008.
3.丹野義彦・坂野雄二（編）：ワークショップから学ぶ認知行動療法の最前線　うつ病、パーソナリティ障害、不安障害、自閉症への対応．金子書房．2008.
4.小谷津孝明・小川俊樹・丹野義彦（編）：臨床認知心理学．東京大学出版会．2008.
5.丹野義彦（編集・監訳）:対人恐怖とＰＴＳＤへの認知行動療法：ワークショップで身につける治療技法．星和書店, 2008.
6.Sugiura, T., & Sugiura, Y.:Negative life events and obsessive-compulsive symptoms:. In T. P. S. Oei & C. S. Tang (Eds.), Current research & practices on cognitive behavior therapy in Asia (pp. 30-41). Austraria: CBT Unit Toowong Hospital.2008.
7.坂本真士・丹野義彦・安藤清志（編）：臨床社会心理学．東京大学出版会．2007.
8.中安信夫：精神科臨床を始める人のために：精神科臨床診断の方法．星和書店.2007.
9.Yamasaki, S., Arakawa, H., Tanno, Y. & Furukawa, S. Preliminary analysis of the causal relationship between delusional ideations and stress coping skills. Sakamoto, T (Ed) Communicating Skills of Intention, Hituzi Linguistics in English. Hituzi Syobo Publishing, pp. 51-60, 2006.
10.Kobori, O., Harada, S., Tanno, Y. & Katsukura, R. A case study of a schizophrenia patient with OCD and development of the total viral transference Questionnaire. Sakamoto, T (Ed) Communicating Skills of Intention, Hituzi Linguistics in English. Hituzi Syobo Publishing, pp. 43-50, 2006.
11.丹野義彦（監訳）：妄想はどのようにして立ちあがるか．ミネルヴァ書房．2006.
12.丹野義彦・石垣琢麿（訳）：統合失調症：基礎から臨床への架け橋．東京大学出版会．2006.
13.Sugiura, Y.: Personality correlates of mindfulness. In M. G. T. Kwee, K. J. Gergen, & F. Koshikawa (Eds.), Horizons in buddhist psychology. Chagrin Falls, Ohio: Taos Institute Publications. pp. 251-266. 2006.
14.坂野雄二・丹野義彦・杉浦義典（編）：不安障害の臨床心理学．東京大学出版会．2006.

６．研究組織

(1)研究代表者

丹野　義彦（TANNO YOSHIHIKO）
東京大学・大学院総合文化研究科・教授
研究者番号:60179926

(2)研究分担者

なし

(3)連携研究者

中安　信夫(NAKAYASU NOBUO)
東京大学・大学院医学系研究科・准教授
研究者番号:70126134
石垣　琢麿(ISHIGAKA TAKUMA)
東京大学・大学院総合文化研究科・准教授
研究者番号:70323920
毛利　伊吹(MOHRI IBUKI)
帝京大学・文学部・講師
研究者番号:20365919
杉浦　義典(SUGIURA YOSHINIRI)
広島大学・大学院総合科学研究科・准教授
研究者番号:20377609